

2024年3月2日(土)

老球の細道778号

時差ボケは「どこのドイツだ」③

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅱ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

海外に出て問題になるのは言葉の不自由さと時差ボケとの戦いである。私の様な年寄りには、それに爺様ボケがプラスされる。国際試合、海外遠征で実力を発揮できずに終わってしまうのはこのことに起因するのか。日本とドイツは約8時間の時差がある。日本で起きている時間にドイツでは眠り、日本で寝ている時間にドイツでは起きている。初日の睡眠は早速時差との戦いとなった。1時間ごとに目を覚まし、熟睡できずに二日目を迎えた。海外旅行初のS先生は時差ボケなどものともせず完熟熟睡。さすが日本女性。

宿泊しているホテルはドイツの最高級五つ星ホテル『Penta Hotel Chemnitz』。トステンのプロチーム「ケムニッツ99ers」のスポンサーになっている。このホテルの部屋はさすがにビックなのだが付属品が何もない。宿泊に最低限必要なシンプル・イズ・ビューティフル。出発前日、成田のホテルに前泊したが、このホテルと比較しただけでもナイナイづくし。部屋には、冷蔵庫、時計、ポット、宿泊案内書、寝間着、スリッパがなかった。メモ用具も使い古しの鉛筆と紙切れのみ。布団も1枚のみ。バスルームもひどい。歯ブラシ、歯磨き、ひげ剃り、ブラシがない。トイレにはウオシュレットがついていない。「自分で用意できる物は自分でしろ！」という欧米特有の自主自立、自己責任？いかに日本のホテルが至れり尽くせりかわかる。ここでも日本の常識は世界の非常識。

余談になるが、喜多方工業の星先生(現若松商業)がいたために、「五つ星」から「一つ星」に待遇がダウンしたのではないかなどという冗談が密かに語られていた。

【2009年12月27日】PART I

極度の時差ボケの状態での研修生活がスタートした。ケムニッツ99ersのマイクロバスがホテルまで迎えに来て、ホームコート「ハートマンハーレー」体育館に向かった。この大型バスはもちろんベンツ。

ハートマンハーレーはプロチームの専用体育館であるが、バスケットコートが4面取れ、普段は子どもから年寄りまで地域の人々が自由に使用できる。体育館の外観はいたってシンプル。内部は使用者、観客共に効率よく楽しめる工夫が随所に施されている。特に冬場の暖房はすばらしく、寒さを一時も感じないで体育館にいらることができた。ドイツのみならずアメリカでもそうであったが、体育館は観客のことも考えて建設され、観客席、冷暖房などの設備は常識。これに比して、日本の、特に学校体育館の味気なさは言うまでもない。欧米諸国においてスポーツは文化であり、文化にお金をかけるのは当然のことなのである。

午前中は体育館のVIPルームにおいて自己紹介とオリエンテーションからスタートした。知らない人達を前にして自己紹介を兼ねた挨拶をすることは恥ずかしい。いつもながら思うが、機知に富んだユニークな挨拶ができるようになりたいものである。(続く)